

勝手踏切の現状と対策 ～JR西日本奈良線を例に～

近年の鉄道事故の大半は、踏切障害事故と人身傷害事故の二つが占めている。これらの事故は、一度発生すると死傷者を生じ、多くの人に影響を及ぼす。また、鉄道の安定輸送を損ない、社会的損失を生む。

我が国の踏切は、2002年に鉄道に関する技術上の基準を定める省令が制定されたことで、新規設置は原則として認められず、設置された例も極めて少ない。一方、踏切事故に対する様々な対策が行われたことにより、現在の踏切事故件数は年間300件を切る状況となっている。しかし、これは正規の踏切での件数であり、勝手踏切と呼ばれている箇所での事故は含まれていない。

勝手踏切に関する先行研究はほとんどなく、明らかにされている部分が少ない。しかも、住民が昔から利用していた生活道路上に線路が敷設された経緯から、鉄道事業者や自治体は横断を黙認している状況にある。しかし、勝手踏切で事故は少なからず発生しており、早急に対応すべき課題の一つであるといえる。

勝手踏切が抱える課題を明らかにするため、我々は都市部に位置し横断人数が多いJR西日本奈良線に存在する勝手踏切において現地調査を行い、加えて自治体・鉄道事業者・住民へのヒアリング及びアンケートを実施した。JR奈良線沿線は、伏見稲荷大社や平等院が存在し、同線は観光客のアクセスの重要な路線の一つである。トラブルによって、列車が運休すれば、沿線住民だけでなく観光客への影響も大きい。

また、いうまでもなく勝手踏切は閉鎖すべきであるが、住民の合意を得ないまま閉鎖することは反発を生むおそれがある。そのため、閉鎖に伴う十分な代替案を示した後に実施すべきである。本稿では、JR西日本奈良線六地蔵-黄檗駅間に存在する勝手踏切を例に、具体的な代替案を提案する。